

(バス・車両用) 車載型磁気ループ補聴システムの開発 概要

代表機関名 株式会社ソナール

※全体の概要

本開発は、公共建造物に設置されている磁気ループ補聴システムを、(バス・車両用)に設置することで、移動体内での難聴者の聴取力を向上させ、もって、彼らの自立支援を促進し、社会参画を拡大すること（以下、バリアフリーと記す。）を目的としたものである。

この目的を達成するために、以下の課題の解決をテーマとした。

- ① 磁気ループ補聴システムの車載型の開発。
- ② 開発した車載型磁気ループ補聴システムが難聴者のバリアフリーに役立つものであるか否かの実証。
- ③ この種磁気ループ補聴システムの品質基準に関する知見を得ること。

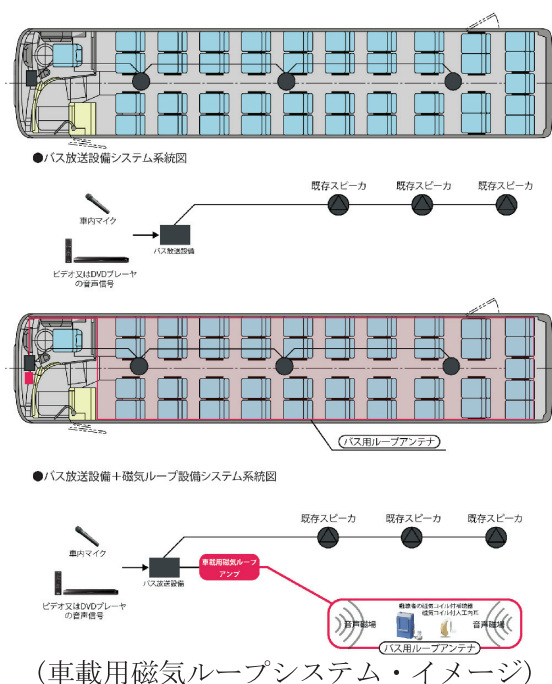
※試作した機器またはシステム 1 バス車載型磁気ループ補聴システムの開発

バスのダッシュボードに収納可能な磁気ループアンプの試作に成功し、また、バス固有の空間を利用した合理的なループアンテナ設置に成功した。



図1 (磁気ループアンプの設置写真、ループアンテナの設置写真)

システムの作動原理



※試作した機器またはシステム2 97名のモニターによる聴取力実証試験

すべての試験場所において、バスの高速走行中、アイドリング中のいずれにおいてもバス車載型磁気ループ補聴システムが補聴器・人工内耳（以下、これらを総称して補聴器等と記す。）のみより良好に聴取できるとの評価結果を得た。さらに多くの難聴者より、公共交通機関への車載型磁気ループ補聴システムの設置を望む意見を頂いた。



図2（実証試験風景を示す写真）

※試作した機器またはシステム3 新聴取力評価方法の採用

聴取力の環境影響を調べる評価方法として、商標の称呼類似基準を利用した新たな評価方法を採用した。今回の実証試験では、他の評価方法と同時に実施し、聴取力の環境影響を反映できるものであることを確認した。

しかし、当該新方法は、体系的に整備されることで、聴取力の評価基準を定める方法にも用いることができる可能性を含むものと考えられるので、さらなる研究開発が望まれる。

聞こえた単語を○印で囲ってください。					
問題1	タナオ,	タナコ,	タナソ,	タナト,	タナホ
問題2	パアキ,	パアシ,	パアチ,	パアニ,	パアヒ
問題3	ウヌイ,	ウヌキ,	ウヌシ,	ウヌチ,	ウヌヒ

図3（3モーラ問題の実証例）